



経年変化を楽しむため銅のドアは表面処理を施していない。鮮やかな明るい銅は年数を重ねることに銅独自の落ち着いた色合いに変わっていく。



部屋番号とロゴは真鍮製。ロゴは旧建物に使用されていたのモチーフを活かしている。



全面が純銅板に包まれたエレベータ。非日常の癒しの空間へと客人は足を踏み入れる。

杉材を使用した日本的な壁に、ヨーロッパ調のタイルの床、そして銅のドアという組み合わせは、北欧と和がミックスされた先鋭的な印象。



時代とともに名称を変えていった建物。「K5」という名称は直近の「兜町第5平和ビル」から名付けている。重々しい意味を込めるよりも、呼びやすく、フラットで軽やかな響きを優先させた。K5ロゴは真鍮製



重厚な石造り、高い天井は元銀行ならではの造り。



時の流れを表現する銅の内装

渋沢栄一が生んだ銀行をリノベーション

第48回
日本銅センター賞
受賞

近代日本経済の父、渋沢栄一。最近、新一万円の顔になることが決まったり、NHK大河ドラマの主人公として起用されるなど、にわか注目を集めている。そんな渋沢が設立した銀行の本店分館がこのほどリノベーションされ、ホテルをはじめとした複合施設「K5」として生まれ変わった。日本橋兜町の新スポットとして話題を集める「K5」とは、取材に伺った。

変貌を遂げる日本橋兜町

重厚な歴史的建造物が連なる、日本橋兜町。日本の金融経済とともに発展してきた街である。バブル期は多くの証券マンが闊歩し、賑わいをみせていた。しかし株の売買の電子化に伴い、急速に賑わいは失われていった。

スーツ姿の証券マンが消えていく一方で、最近、カジュアルな服装の若者たちの姿が兜町に目立つようになってきた。パティスリーやフレンチレストラン、



渋沢栄一が兜町に開業した日本初の民間銀行「第一国立銀行」の本店分館として、大正12(1923)年に竣工した。ちなみに名称に入っている「国立」とは、国が定めた銀行条例に従うという意味で、資本や運営は民間の合本組織が行った。

ダイニングなど、話題のお店が次々と開業しているためである。取材日も先端のファッションに身を付けた若者グループがしきりとカメラを向けている建物があった。視線の先にあったのは歴史を感じさせる重厚な石造りの建物、「K5」である。

ここは、渋沢栄一が兜町に開業した日本初の民間銀行「第一国立銀行」の本店分館として、大正12(1923)年に竣工した建物である。渋沢と日本橋兜町の関係は深く、渋沢は兜町に私邸を構え、株式取引所(現東京証券取引所)の設立にも関わった。K5はその東京証券取引所の真ん前に位置する。およそ100年もの年月を重ねてきた建物は、2020年に外観・躯体はそのままに大規模なリノベーションが行われた。

圧倒的な存在感を放つ銅

K5は2〜4階のホテルを中心に、一階には人気のレストランやコーヒーショップ、地下にはビアホールが新店する複合施設となっている。

「訪れていただけの方々には、建築やデザインに興味がある方も多く感じています。というのも、スウェーデンストックホルムを拠点に活躍する建築ユニットCLAESSON KOIVISTO RUNE(以下CKR)がデザインを担当したことから、「あのCKRが手掛けた施設が日本にオープンする！」ということも話題になっていました。CKRはヨーロッパを中心に建築からプロダクトまで幅広く手

いる。



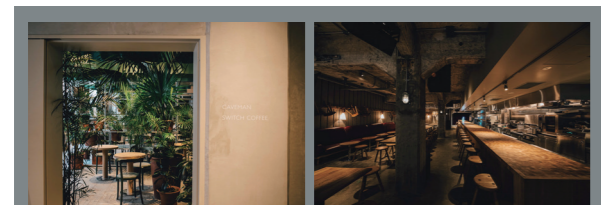
K5
PR Director
大倉 皓平氏

がける3人のデザインユニット。今回初めて東京で建築デザインを監修するということが注目されていました。「こう話すのは広報担当の大倉皓平氏。K5の設計デザインコンセプトは「時の重なり」で、日本の伝統を意識したタイムレスな空間となっているという。それは一体どんな空間なのだろうか。

まずホテルのエレベータに「一歩足を踏み入れると、驚く。全面が純銅板で覆われているのだ。美しい銅の空間に包まれることで、外の喧騒を忘れ、非日常な癒しの空間に來たことが印象付けられる。そしてエレベータを降りるとまだ驚く。客室のドアがすべて純銅板。圧倒的な存在感を放っている。20部屋すべてに使用されているから、銅板使用量はかなりの量におよぶ。竣工から間もないため、鮮やかな明るい銅がまぶしい。杉材を使用した日本的な壁に、ヨーロッパ調のタイルの床、そして銅のドアという組み合わせは、北欧と和がミックスされた先鋭的な印象を持つ。

「経年変化を楽しめるように銅には表面処理を施していません。また、あえて磨き上げないようにしています。この建物はおよそ100年の歴史があります。次の100年を見据えて、銅がゆっくりと色を変え、味わいを増していくように成長していくのです」

こう話す大倉氏は、つやつやと光沢のある銅よりも、「時間を経たない銅の方がかっこいいのでは」と力説する。ホテル客室はCKRオリジナルの照明や家具、鉛筆一本に至るまで、細部にわたって、新しい美意識で満たされて



ホテルの他にも、目黒の人気レストランKabiの流れを汲む「CAVEMAN」(写真左)、人気コーヒーショップ「SWITCH COFFEE」、図書館とバーが一体化したサロン「Ao」、Brooklyn Breweryの旗艦店となるビアホール「B」(写真右)など、話題のお店が店出している。



客室は照明や家具、鉛筆一本に至るまで、細部にわたって、新しい美意識で満たされている。